

第5学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

1 単元名 「地域とともに歩む ～私たちの未来～」【B 地域の創生】(25 時間扱い)

2 単元の目標

大田区や地域の未来のために、多くの人々が働いていることやその現状を理解するとともに、大田区の事業所や町会・自治会などの地域の方からのリアルな要望(児童に取り組んでほしいこと)を、仲間と協働して考え、解決し、提案していく活動を通して、未来を創造する力を身に付けることができるようになる。

3 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準	ア インタビュー活動を行い、地域や地域を支える職業の情報を多面的・多角的に収集している。 イ 新たなアイデアやデザインを生み出すために、現行の地域創生の取組に関する知識を習得している。 ウ 自分たちの学びを地域の方々や保護者、在校生などに分かりやすく伝えている。	ア グループの中から出てきた提案について考え、収集した情報を整理して、地域の職業を通した地域創生のコンセプトを設定している。 イ コンセプトに合った地域創生の取組のアイデアやデザインを公共性、持続可能性等を踏まえて考えている。 ウ 調査の結果や、専門家や関係者からのフィードバックを生かして、試行錯誤してアイデアやデザインを改善し、提案資料をまとめている。	ア コンセプトを設定するために見学、インタビュー、調査等にすすんで取り組み、情報を収集しようとしている。 イ コンセプトを設定するために収集した情報を協働して整理しようとしている。 ウ コンセプトに合った取り組みのアイデアやデザインをし、自分と他者のよさを生かし協働的に取り組もうとしている。 エ 事業所や地域の方からのフィードバック等を生かして、アイデアやデザインを改善しようとしている。 オ 学習を振り返り、価値や改善点を捉えようとしている。
ICTの活用	エ ICTを活用した情報収集やスライド作成、動画編集、調査、統計資料作成の基本的な事項を身に付けている。	エ 効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもって効果的に ICT を活用している。	カ 他者との協働、振り返りと改善のために ICT を活用しようとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

北糀谷の町は、呑川と旧呑川緑地に挟まれた住宅街で、技術に優れた職人の方が働く工場の町という特色がある。町会の行事も盛んで、夏のわくわくスクールでの昔遊びや子安八幡神社で開催されるお祭りなどを通して交流が行われている。また、羽田空港に近い地域のため、外国からの観光客や、外国籍の居住者の方も多く見られる。このような地域に住む児童が、自分たちの地域の現状やよさ、課題を知り、地域で実際に働いている大田区の事業所や地域の方々とともに、よりよい未来を創造していこうとする力を身に付けることができるよう、本単元を設定した。大田区の事業所や地域の方々とともに学習に取り組むことで、未来を創造し自ら挑戦していく人材を育成する。

(2) 授業パートナーとの連携

- ・大田区産業振興課 観光 ・大田区高齢福祉課 ・地域包括支援センター ・地域基盤整備第二課
- ・国際都市多文化共生推進課 ・地域町会・自治会代表（北糀谷町会・大森南一丁目自治会）

上記の方々は、大田区に勤め、大田区の様子をよく知っている方々である。町づくりは多くの視点から成り立っていることを理解するためにも、様々な業種の方々と触れ合い、その職業や仕事を理解して自分たちの活動につなげていくことがとても大切である。「社会に開かれた教育課程」を実践していくためにも、児童が自分たちの学びを内外に発信する場を設けることはとても重要である。今回協力いただく方々を、「観光」、「福祉」、「地域」、「国際」、「町会」、という5つの視点に分け活動していく。

(3) 学習過程

各教科で学んだことを生かし、様々な形で学校内外に発信できるようにする。本校では、高学年が教科担任制ということもあり、様々な先生方とも連携して児童の学習を支えることができる。この利点を生かして、指導を工夫していく。また、本単元の特色は、「地域とのつながり」を意識したPDCAサイクル中心の学習となっていることである。地域とのつながりを持ち、北糀谷に住む人々、地域ために活動ができるかなど人とかかわりをとおして、自分たちができることを考えていく。

(4) キャリア教育とのつながりについて

- ・人間関係形成能力・社会関係形成力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

- ・キャリアプランニング能力

「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

(5) 本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数

教科等名	本単元で扱う内容	授業時数
国語	・ 目的や意図に応じて、図や表を使って自分たちの考えや思いを詳しく書いたり、話したりするとともに、事実と感想、意見を区別して文章を構成すること。	8
社会	・ 地図を使って場所の様子や地域の全体図を説明し、身近なところに地域をよりよくしようと働いている人々がいることを紹介すること。	3
外国語	・ 外国人の方に自分たちの町の魅力を伝えるために、海外とは違う日本文化の魅力や地域のおすすめなどを英語で紹介すること。	4
総合的な学習の時間	・ 地域や学校の特色に応じた課題について考え、自ら学習計画を立てて主体的に活動に取り組むこと。	10

5 児童の実態

児童は生活科や第4学年までの社会科を通して、実際に町に出向いて見学・体験し、自分たちのまちの特色は知っている。また、これまでのキャリア教育の実践や、学級活動(1)の学習を通して自治的、主体的に活動することの意義や大切さを実感してきている。5年生になって、自分たちにできることはないかを考え生活している児童も増えてきた。しかし、課題や問題に対して、自らアイデアを出し、よりよい方法を考え実践することの大切さは分っていても、それを上手く表現することに苦手意識をもっている児童は多い。本学習を通して、身近な地域に対する問題に目を向け、自分たちで解決策を出し合い、実現させていく喜びを味わわせ、地域の未来、大田区の未来を考えられる児童を育成する。

6 指導の手だて

(1) 学習のゴールの設定

今回、各事業所や地域の方々の協力を得て、5つのグループに分かれて活動を進めていく。それぞれのグループは異なるジャンルの宿題(課題)をいただき、それに対して準備・提案を行う。中間発表会で一度発表してアドバイスをいただく。それをもとに再度練り直し、最終発表会で完成したものを発表する。その後、学校行事である「未来づくりフェスティバル」で学習成果を発表し、地域、保護者、全校児童に活動を報告する。単元を通して、自分たちの住む町について創造的なアイデアを出し合い、伝承していきけるよう学習を進める。また、学習を通して児童が他教科との関連性に気付き、他教科で得た力を生かすことができるよう指導する。

(2) 授業パートナーとの事前打ち合わせ

各事業所、地域の方々は昨年度から継続してご協力いただいている。実際に児童と活動する機会は3回設定した。第1回目では、児童に向けて、仕事の内容、宿題(課題)発表、それに対する質問に答えていただいた。第2回目は、中間発表会にて、それぞれのグループへのフィードバックをお願いした。その際、事業所の方々が目的にしていた内容、または意図に対して的確に形にできているのかを評価していただいた。そして「こどもだから」、「大人だから」といった視点で評価するのではなく、計画の一立案者としてこどもの提案を評価していただくようお願いした。第3回目では、最終発表会を行い、発表後にはよかった点と改善点という二つの視点で話をさせていただくようお願いした。

(3) ICT等の活用

タブレット端末を活用した調査、写真や動画撮影、スライド・ドキュメントを用いたグループ発表など。

7 指導計画

時	学習過程	○主な学習活動 ★指導上の留意点	◆評価規準 【観点】(評価方法)
1 ～ 5	コンセプト	○これまでの学習を振り返り、学習のねらいを知る。 ○私たちの未来をよりよいものにするために、学習してみたいことについて話し合う。 ★事業所や地域の方と関わり、町の未来を創造していく学習であることを押さえ、学習課題を設定できるよう、事前の指導(自分たちの地域のよさや課題等)を行う。 ○事業所や地域の方から仕事の内容や地域の現状などについて話を聞く。 ★児童に取り組ませたいことや、仕事をする上で意識していることを伝えていただく。 ★現状を踏まえ、各グループに宿題を出してもらう。 ○地域や事業所の方から児童への要望(取り組んでほしいこと)を聞き、質問をする。 ○前時の内容を整理し、学習計画を立てる。 ★事業所や地域からの課題を受けて、その話から逸れないようにできることやしたいことを考えるように助言する。	◆【主】イ(ワークシート、発言) ◆【知】アイ(活動) ◆【主】ア(ワークシート、発言) ◆【思】ア(発言) ◆【主】イ(ワークシート)
6 ～ 12	デザイン	○地域の方からいただいた要望、課題(宿題)の解決に向けて取り組む。 ・グループの中で、取り組むことや役割分担を確認する。 ・インタビュー活動をふり返り、目的に沿って活動を進める。 ・必要な情報を探したり、集めたりする。 ・グループでできたものは見合い、互いに良い点や改善点を話し合う。 ・事業所や地域の方に、ねらいや意図を説明できるように資料を用意する。 ・形にしたことを事業所や地域の人に伝えるために、発表の練習を行う。 ★実際に試作したり、試験したりしながら、完成に近づけていく方法を伝え、PDCAサイクルを大切に、学習を行うようにする。 ★PDCAサイクルを意識させ、よりよくしていくために大切な視点を指導する。	◆【思】イ(活動、発言、タブレット端末)

13 本 時		○自分たちで考えたことを事業所や地域の人に伝え、話し合う。(中間発表) ★児童が考えたことが事業所や地域の方から話していただいたことと話題がそれていないかどうかを確かめていただくようにする。	◆【知】ウ(スライド作成、動画編集等) ◆【主】エ(対話)
14 ～ 25	ク リ エ イ シ ョ ン	○中間発表から自分たちにできることを考え、もう一度実際に形にする。 ・改善点を話し合い、自分に取り組む活動を確認する。 ★自分たちがこれまで形にしてきたことはどんなコンセプトで行ったのか、プレゼンテーションをする資料を各グループ作成するように指導する。 ・既に作成したものをどうよりよくしたのかを説明できるように、資料を用意する。 ・最後の発表に向けて練習をしたり、必要なものを作成したりする。 ○形にしたことを事業所や地域の人に披露する。 ●事業所や地域の方には、よかった点と改善点(課題)という二つの視点で話をしていただくようお願いする。 ★事業所や地域の人からのアドバイスを忘れないようメモや記録を取るようにする。 ○学んだことを他学年、保護者や事業所や地域の人に発表するために準備する。 (未来づくりフェスティバルに向けて) ○未来づくりフェスティバルで全校に発表する。(学校行事) ○これまでの歩みをふり返し、これからの生活に生かせることを見付ける。 ★振り返りをしっかり行い、学んだことを一人一人が発表できるようにする。	◆【思】ウ(活動) ◆【主】ウ(活動、ワークシート) ◆【知】エ(スライド作成、動画編集等) ◆【知】ウ(ワークシート、対話) ◆【思】エ(活動) ◆【主】エ(活動、ワークシート) ◆【主】オ(活動) ◆【主】オカ(発表) ◆【思】イ(ワークシート) ◆【思】エ(発表)

8 本時の指導（全 25 時間中の第 13 時）

（1）目標

中間発表会を行い、自分たちの取組をさらによりよくしていくために必要なことは何かを見付けよう。

（2）展開

	○主な学習活動	◆評価規準【観点】（評価方法） ★指導上の留意点
導入	○学習のめあてを理解する。	★今日のめあてや流れについて掲示物をもとに説明する。
	中間発表会を行い、自分たちの取組をさらによりよくしていくために必要なことは何かを見付けよう。	
展開	○グループに分かれ、それぞれいただいた宿題をもとに形にしたものを発表する。 （中間発表） ○地域や事業所の方からフィードバックをいただき、質問をする。 ○フィードバックを基に形にしたものをどのように改善していくか話し合う。	・大田区産業振興課 観光 ・国際都市多文化共生推進課 ・大田区高齢福祉課、地域包括支援センター ・地域基盤整備第二課 ・町会・自治会代表(北糀谷町会・大森南一丁目自治会) ◆地域、保護者、下級生に分かりやすく伝えることができる。 【知】ウ（スライド作成、動画編集等） ★事業所や地域の方からのフィードバックを生かして、アイデアやデザインを改善しようとしている。【主】エ（対話） ★事業所や地域の人が目的にしていた内容、または意図に対して、的確に児童は内容を考え、形にできているのかを評価してもらう。 ★事業所や地域の人にも参加していただき、その場で意見もいただく。
まとめ	○全体の場でグループごとにいただいたアドバイスや改善案を発表する。 ○次時への見通しをもつ。	